
陸上物語 ~ 予告編 ~

ROOK IMAZIN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陸上物語〜予告編〜

【コード】

N1595Q

【作者名】

ROOK IMAZIN

【あらすじ】

いつか出す(？)つもりの「陸上物語」の予告編です。

僕がはじめに陸上をやるう
そう思ったのはいつだろう

きつと

それはとても遅いんだろう

中学入って5月？6月？

よくわかんない

けど、

これだけはいえる僕が中学一年の六月十四日。
この日のいわゆる『デビュー戦』とかいう日だ

きつかけはただ一人の少女がいたから

昔ただ一人の少女に逢ったから

出会いは異常だったけど

今なら思える

礼を言いたかったんだと思う

僕が彼女に出会ったのは小学五年生のときだ。

その時期僕は周りに対して反抗期というやつをもっていたと思う。だから特に誰ともしやべらない。特誰ともに関わる気は全くなかった。

そんな感じでいつもとかかわらず一人窓の近くで空を眺めたりしている時期だった。

そんなときクラスで席替えをした。

そんなときになった隣は俺の視点からして見れば自分とは正反対にいつも誰かというようなやつだった。

例えていうなら

” 光と闇 ”

” 善と悪 ”

” 生と死 ”

そんなもんだった。

だから俺はそういうヤツを嫌っていた。

そうゆう明るいところにするヤツらが嫌いだからだ。
理由は何となく。

当然だがそんな風な空気をまとっているから誰ともかかわることはないし。

俺自身もかわろうとしないから、のんびりできていた。

ただ、そいつは周りのやつらとは違った。

初対面でいきなり驚かされたり、ことあることによく話しかけられ

たりもした。

そんなことがあって何個か気付いたことがある。

いつの間にか俺はそいつに気を許しているという事だ。
少しづつ惹かれつつある事だ。

あとは、
初めて女子を見ていて、「こいつ女子なんだよな」といい聞かせる
自分ができてしまったことだ。

それから何日経った後。
まだ隣の席にいた頃。

―― グランドで

教師：「おゝいちゃんと準備運動しろよ」

わかっているからそれくらい。

教師：「最初の勝負相手はちゃんというか？」

あゝちゃんというよ。

でも、なんで

教師：「100m走だからって気抜くなよ」

「おい、さつさとやるつぜ」

： （なんでこいつなんだよ）

ー ー 少し時は戻る。

教師：「おい、今日は体育で100mをはかるぞ」

マジかよ今10月だぜ？さむいだろ。

周りから「さみーだろ！」とかきこえる。あたりまえだ！

一人から「おし！」とか聞こえる。 うん、おかしいな。すぐ真横から聞こえるぞ？

教師：「そんなんだからー」

するーかよ。

教師：「一回目の相手を決めてある」

「そのあいてはー」

ふーん決めてあるんだ。まっ普通に同じぐらいの相手とかか？でも最後に計ったの去年じゃなかったか？それじゃあほとんど適当かな。

教師：「ー ー となりのやつだ」

： おかしいな。

ものすごい適当じゃねーか！

教師：「二回目はそれぞれ適当でいいからな」

「さっさとグラウンドに来いよ」

ねえ、誰か一緒に抗議しにいかない？

――そして今は

「（なんでこいつなんだよ）

「ほら、三番後だぜ」

「ちなみに、陸上のモットーは？お前陸上やっているだろ」

「ん、『敵の不敵な面構えを見て闘志を燃やす』だけど？」

「（こいつは女子なんだよな）」

教師：「ほら次ー」

「ほーい。さっさとやるぜ」

「ああ。ちなみにオレは結構速いぞ？」

「そりゃいい」

そりゃ、まとも以外で遊んでいないんだからな。

それにサッカーもやっていたんだ。

一瞬の集中力には自信があるさ。

『イチニツイテ』

体を前にゆつくりと傾ける。

これはオレが遊んでいたときに身につけた速攻で動ける姿勢さ。
反射神経（？）ではだてに負けないぞ。

『ヨーイ』

体の力をいったん9割抜く。

そのぶん全身に神経を張り巡らせるのを一瞬。
そして、

『ドン』

思いつきり走る！

スタートは成功！いままでの中で一番かもしれない。

思いつきり腕を振る！

足を思いつきりまわす！

早く！速く！！おもいつきり！！！！

50mぐらいでつかれた。

そしてのんびりと負けてしまった。

「 …… 」

「 は …… い …… ちゃん 」

それから約三年後

「おい！明日大会だぞ！ちゃんと寝ろよー」
という声が聞こえてきている。

(後書き)

かなり短縮しました。

明かされない三年間。

なんか面白そうでしょー。

よかったら本編が出たときに見てください。

題名もジャンルにあった題名にするかもしれません。

そして

これとはまた大きく変わっていると思いますんでm┐┌m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1595q/>

陸上物語～予告編～

2011年1月19日00時34分発行